

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 中間評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立有明東小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの項目においても、計画に沿って一年間しっかり取り組むことができ、どの項目も「おおむね達成できている」以上の評価となった。</li> <li>学力向上や特別支援教育など専門性と意識を向上させながら取り組むことができ、学力学習状況調査においては県平均を上回ることができた。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	進んで学び さわやかに たくましく生きる子どもの育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<p>① 全ての子どもが「学ぶ喜び」「分かる・できる喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。</p> <p>② 全ての子どもに自分や友だちのよさを認め、すすんで活動する機会【Chance】を作り、様々なことに挑戦【Challenge】を促し、過程や結果を認めることで「学校は楽しい」「成長できた」と実感【Change】できるよう成就感の向上を図る。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価

(1)共通評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
●学力の向上	○主体的・対話的な学びの充実	○「協働的な学びにつながる対話活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をする職員の割合を80%以上にする。	・協働的な学びの場を醸成できる課題やめあての在り方を、教材研究・児童理解の双方から探る。また、研究授業や理論研究を通して、具体的な授業の姿を確立していく。	B	・「協働的な学びにつながる対話活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をした職員は58.3%と目標値を大きく下回っている。夏季休業中に学力向上についての研修を行い、本校の課題とそための手立てを全職員で考えた。2学期以降この手立てに沿って全職員で取り組んでいく。
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分のよさがわかる」という児童を80%以上、「友だちのよさがわかる」という児童を95%以上にする。	・自分のよさに気付き、他者への思いやりの心を育てるための取組や指導を工夫する。	B	・自分のよさに気付いている児童は79.8%、友だちのよさに気付いている児童は89.9%であった。今後も、日常の活動等を通して、児童のよさを称賞したり友だちのよいところ見つけるなどの活動を設けたりすることで、自他のよさに気付くことができる児童が増えるように取組を継続していく。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○小さないじめ事案であっても見逃さないように、報告・連絡・相談をしようと務めた職員の割合を100%にする。 ○「友達と仲良く協力し、学校で楽しく過ごすことができる」という児童の割合を95%以上にする。	・小さないじめ事案であっても、関係者の話し合いやケース会議を行い事案を把握するように努める。 ・児童理解推進委員会を定期的に開催し、職員全体で把握する。 ・児童観察や定期的なアンケートで実態を把握し、問題行動やいじめに迅速に対応する。	A	・91.2%の児童が、友達と仲良く協力し、楽しい学校生活を送ることができている。 ・定期的にアンケートを行い、日々の観察や実態把握を行った上で取組になる児童には個別的な指導を行っている。特に気になる児童に対しては、ケース会議や50との相談を持って今後の支援体制を検討している。また、児童理解推進委員会で、職員全体で問題を把握し、見逃しを防止する体制ができるように考えていく。
●健康・体づくり	●◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを理解してくれていると思う」と回答した児童を80%以上にする。 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・日頃の帰りの会やお便りなどで、声掛けをしたりよいところを伝えたりする。 ・キャリアパスポートを活用し、行事ごとにふり返りをさせ、いつでも児童に自分の足跡を確認させるようにする。	B	・93.9%の児童が、先生からよいところを理解してもらえていると感じている。今後も、日頃からの声掛けや、よい言動をした時の称賞などを続けていく。 ・1学期はキャリアパスポートをなかなか活用できなかったが、2学期以降は行事ごとのふり返りをさせていくことで、自分の成長を実感させていくようにする。
	●「望ましい生活習慣の形成」	○次の時間の準備をして休み時間を過ごすことができる児童の割合を90%以上にする。 ○進んであいさつができる児童の割合を90%にする。	・月の生活目標と関連させた指導を行う。 ・学年に応じたあいさつの指導をする。 ・また、定期的に振り返りの時間を設け、意識付けを行う。 ・あいさつ週間を設定し、あいさつに対する児童の意識を高め、よく頑張っている児童をほめる。	B	・定期的な生活チェックでの振り返りを行ったり、あいさつ運動や学年での指導、称賞を続けていくことで、児童の意識は少しずつ高まってきている。アンケートでも、93%の児童が気持ちの良い挨拶をしていると答えている。ただし、十分できていると回答した児童は、16.7%であった。 ・90.4%の児童が、次の時間の準備をして休み時間を過ごすことができている。ただし、十分できていると回答した児童は、16.7%であった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限(月45時間 年間360時間)を遵守する。	・定時退勤推進日の退勤時間を守られた日数を90%以上とする。 ・共通理解を効率的に行い、会議の回数や会議時間の精選及び効率化を図る。	C	・定時退勤推進日の「18時まで」に退勤を守られた日数の割合は約85%。時間外勤務時間数、月45時間以上の職員が月平均7名だった。今後、退勤時間や時間外勤務時間数の上限を一律意識して業務の遂行を図っていく。 ・1/10アンケートで共通理解を促し、連絡会等の会議の時間削減に務めた。 ・会議や研修を計画的に行い、業務の効率化を図ることができた。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○廊下の右側歩行率を90%以上にする。	・月の生活目標と関連させ指導を行う。 ・定期的に振り返りの時間を設け、意識付けを行う。	A	・93%の児童が右側歩行を意識して実行できている。 ・引き続き、定期的な生活チェックによる振り返りや、教師による声かけ等の取り組みを行うことで、さらなる徹底を図っていく。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
○特別支援教育	○職員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員100%を目指す。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催と全職員での情報共有をする。 ・必要に応じて専門家との連携を図る。	B	・児童の実態を把握し特性に応じた支援に努めたり、研修に参加したりして専門性の向上に努めている職員は、81.8%だった。 ・講師の都合により夏休みの研修が延期になり、校内での研修ができなかったため今後研修を行いたい。 ・必要に応じてケース会議を開いたり巡回相談を利用したりして支援に当たっているが、全職員での更なる情報共有が必要である。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
--------------------	---